

(様式1)

自己評価表(1枚目)

松山北高等学校中島分校
学校番号(22)

教育方針	自律・共同・誠実を重んじる学校生活を通じて、豊かな人間性と不屈の精神を養うとともに、個性と能力に応じた教育の徹底を図り、国家、社会に役立つ心身ともに健全な市民を育成する。	重点目標	社会貢献できる人材の育成 — 感謝から自立と共生へ — 1 基本的な生活習慣の確立を通して、自律心を育みます。 2 体験活動やボランティア活動の実施と部活動の充実により、豊かな人間性と社会性を育みます。 3 基礎・基本の定着を図るとともに、社会人基礎力を育みます。 4 能力・適性に応じたキャリア教育を推進し、生徒一人一人の進路希望を実現します。
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	適切な教育課程の編成	多様な生徒の適性・能力・進路に応じた教育課程を編成する。	B	令和4年度入学生のための教育課程を編成することができた。現行の教育課程の中で、希望進路にとらわれず弾力的な科目選択ができた。	新教育課程について今後も分析や検討を続け、改善点があれば対応する。
		教育活動全体を通して、基礎・基本の定着を図るとともに、豊かな人間性と社会性の育成に努める。	B	保護者と教職員の評価はA、生徒の評価はBでありおおむね達成できた。	基礎・基本の定着を図る丁寧な学習指導に加え、地域の特徴を生かした教育活動の充実を努める。
	保護者・地域との連携	学校案内、分校通信、ホームページ、生徒会誌「み津ばち」などで教育活動を発信、紹介に努める。	A	分校通信は定期的に発行、ホームページは毎日更新し、分校の情報を発信することができた。今後についても視覚に訴え見やすい構成での作成を心掛けたい。	学校生活の様子が伝わる写真の選択や全体の構成を工夫し、今以上に見やすく見る者の興味関心をひくように改善していく。
		年間10日以上 ¹ の教育活動公開日を確保するとともに、来校者数の増加を図る。 A:10日以上 B:9日 C:8日 D:7日 E:6日以下 地域での奉仕活動を年間8回以上実施する。 A:8回以上 B:7回 C:6回 D:5回 E:4回以下	A C	公開授業は9日間実施した。コロナ下であったが文化祭は保護者に公開できた。 コロナや天候不順の影響で、予定していた行事が中止や延期となり、目標が達成できなかった。	保護者が参加しやすい日程を考慮し、期間を設けるだけでなく来校してもらえる工夫をする。 コロナ感染の拡大状況を確認しながら、積極的にボランティア活動の機会を作る。
学習指導	教科指導の充実	一人一台端末の活用と個に応じた指導の工夫・実践により、生徒に分かる喜びと意欲を持たせる。	B	生徒の授業評価はBであり、一人一台端末を活用した授業実践がなされていた。	生徒によって端末を活用する頻度や習熟度合いに差があるため、利用率の底上げを図る。
	家庭学習の充実	各種検定試験において、3級以上の資格取得率90%以上を目指す。 A:90%以上 B:89~80% C:79~70% D:69~60% E:59%以下 学習に対する意欲と態度を育て、個に応じた課題により、家庭学習1日2時間以上を確保する。 A:120分以上 B:119~100分 C:99~80分 D:79~60分 E:59分以下	B A	2年生は修学旅行の日程変更で受験ができず達成できなかった。3年生は3級以上取得率100%であった。1年生も各種資格取得に積極的に挑戦した。 考査期間中の家庭学習時間の平均は124分であった。	各学年、全員が取り組む雰囲気が出てきている。今後は生徒の個性や実力を見極めて上級にも挑戦させる。また、1年生にも積極的に受験させる。 自ら学ぶ態度の育成という観点から、生徒に応じた課題の工夫を行う。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立に努め、年間出席率95%以上を目指す。 A:95%以上 B:94~90% C:89~80% D:79~70% E:69%以下	B	各学年の2月末までの出席率は、1年生91.4%、2年生90.8%、3年生90.6%であり、全学年で90%を超えている。	1・2年生は3学期に欠席が増えているので、次年度への意識を高めて登校を促す。
		あいさつができる、けじめをつける、忘れ物をしない、清潔感のあふれる身だしなみを心掛ける、清掃にまじめに取り組める生徒を目指す。	B	身だしなみに関しては大きな乱れもなく日頃からの意識が高まっている。清掃に関しても与えられた役割を真面目に取り組む姿勢が見られた。	教職員間の共通理解を深め、保護者とコミュニケーションを常に図りながら、対象となる生徒に継続的に粘り強く指導を行う。
		生徒指導に関して、保護者に適切な情報発信を行い、家庭と学校の指導の連携を図る。	A	生徒のちょっとした変化を見逃さず常に生徒に寄り添う気持ちを持ち、保護者にも呼びかけを行う。情報モラルについても外部の協力を得て指導している。	保護者に対して必要な情報をHPやSNSを通して出来るだけリアルタイムに発信する。
	個人面接の充実	面接を学期ごとに一人3回以上(年間9回以上)行い、生徒の心情を把握し、生徒理解に努める。 A:9回以上 B:8回 C:7回 D:6回 E:5回以下	B	各学年による定期的な面談のほか、誰でも常に相談ができるような体制で取り組めた。	個に応じた生徒指導をしつつ、常に生徒の様子を観察するとともに早期に心情を把握するように努める。
	交通安全指導の充実	生徒一人一人の交通安全への意識の高揚を図り、交通事故・違反ゼロを目指す。	B	交通ルールの遵守とマナーの向上に努め、交通事故・違反ゼロの結果であった。自転車保険の加入率は100%であった。	来年度も事故ゼロを目指して交通ルールの遵守とマナーの向上に努める。
	教育相談・特別支援教育の充実	教職員の連携と情報の共有を図り、一人一人に応じた支援体制を整えるとともに教職員の対応力を高める。	B	支援員の配員、外部の関係機関にも協力を得て、教職員の対応力を高めることができた。また、教員間で共通理解を持って指導することができた。	保護者や外部の関係機関との連携を常に取りつつ、一人一人の現状を把握し改善と検討を出来るだけ早期に行う。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

(様式1)

自己評価表 (2枚目)

松山北高等学校中島分校
学校番号(22)

進路指導	進路指導委員会の充実	担任による進路面談後の進路研究会を全学年、各学期実施し、3年生においては適宜追加実施し、早期に個別で適切な進路指導を行う。	B	各学期毎に担任による進路面談を丁寧に行い、進路研究会を通して各生徒の進路希望を全教員に周知した。3年生については進路面談を適宜実施し、その都度組織的に進路指導を行った。	1年次から生徒の特性を踏まえ、進路目標を丁寧に模索し、進路実現に向けた具体的な対策と学習習慣の定着を図る必要がある。担任を中心に、組織的に進路指導に当たる体制を構築する。
	進学・就職指導の充実	保護者との情報交換を丁寧に行い、個に応じたきめ細やかな指導を徹底し、希望者の進学・就職率100%を目指す。 A:100% B:99~90% C:89~80% D:79~70% E:69%以下 進路指導に関して、担任及び進路課長による面談を充実させ、面接や小論文などの受験指導を丁寧に行う。生徒と保護者に対して適切な情報発信を行い、進路実現に向けて家庭と学校の連携を図る。	B	保護者との連絡を丁寧に行い、個に応じたきめ細かい指導が実行できた。しかしながら、3年生の進学・就職率は100%達成しなかった。	家庭と学校生活の様子を保護者と情報共有しながら、生徒の実情を踏まえ、進路実現に向けて早期から計画的に指導する。
特別活動	特別活動の充実	部活動等に主体的、積極的に取り組む生徒を目指す。	B	各部活動等、お互いに連携を取りながら限られた時間を有効活用するとともにルールを守って明るく、楽しく、元気づく活動することができた。	1年次から大学や各種専修・専門学校などの情報を蓄積させ、進路実現に向けて自立した選択ができるよう、進路実現への自覚を持たせる。 サイクリング同好会等の活動を中学生にも発信しながら、魅力のある充実した活動ができるような雰囲気作りと工夫をする。
		学校行事、生徒会活動、部活動等を通して心身を鍛え、充実感や達成感を感じ取らせるように努める。	A	全員が一体感を持って明るく、楽しく、元気づく取り組むことができた。良い雰囲気での活動ができた。	今後も現在ある学校行事等を常に見直し、生徒たちの意見も取り入れた新しい活動に積極的に取り組む。
同和・人権・教育	人権・同和教育の充実	事前の資料配布や相談及び研究授業などを通して、人権・同和教育ホームルーム活動を充実させる。	B	人権・同和教育HR活動ではクラスや生徒の実情に応じた課題を設定し、工夫の見られる取組ができた。	教員研修を充実させ、教材を工夫する。自尊心を高揚させ、差別解消に向けた行動ができる生徒を育てる。
		人権委員会活動、講演会、人権標語、人権ポスター等により、校内の人権啓発活動による人権意識の高揚を図る。	B	人権委員会活動、講演会等により、校内における人権啓発活動は予定通り実践できた。生徒個々の自尊心をさらに高めていきたい。	人権だよりの予定通りの発行や他校との交流、フィールドワークに積極的に参加する。
保健・安全管理	校内美化・環境整備の推進	適切な清掃配置を行い、巡視指導等により生徒一人一人の意識を高め、環境美化を図る。	A	生徒たちは環境美化に対しての意識は高く、校内の隅々まで清掃等の時間では最後まで取り組むことができた。今後も続けていきたい。	適材適所に清掃配置を行い、生徒と教職員が一体となって共に環境美化活動に積極的に取り組む。
		生徒と教職員による芝生・校内作業を毎月実施する。	A	毎月の芝生・校内清掃活動及び、職員校内清掃作業等により、芝生や校庭の行き届いた管理ができた。	コロナ感染拡大や季節・天候を考慮しながら効率よく実施するとともに、継続してグラウンドのトラックを常に整備する。また、校内の除草も常に行う。
	保健管理の充実	実践力につながる「保健だより」を発行し、健康管理の徹底を図る。また、食育の推進に努める。	A	毎月の「保健だより」を発行することで、健康管理の徹底を図り、食育の推進に努めることができた。	毎月の「保健だより」を発行することで、健康管理の徹底を常に図る。
	危機管理、安全管理の充実	学校安全に関する研修と点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努める。	A	学校安全に関する研修と点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努めることができた。	学校安全に関する研修と点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努めることができた。さらに、防災に対する意識を高めさせる。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の平準化、ICTを活用した情報共有など効率化を図り、時間の有効活用を図る。	B	勤務時間、休憩時間は確保できている。また、ICTを活用した情報の共有は進んでいる。しかし、少人数であるので一部の教員に負担がかかる現状がある。	今後についても勤務時間、休憩時間の確保に取り組むとともに年休の取得、テレワークの活用を呼びかけ、ワークライフバランスを心掛かせたい。
	職場環境の整備	身の回りの整理整頓を心掛けるとともに、健康講座や健康相談を適宜実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	身の回りの整理整頓を呼びかけ、業務の効率化による負担減少につながった。健康講座や健康相談についてはコロナ対応等で実施する機会が少なくなった。	働きやすい職場を目指し、施設設備の改修に取り組むとともに、定期的に健康講座やスポーツ活動等を計画し、教職員の健康増進に向け取り組みたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。